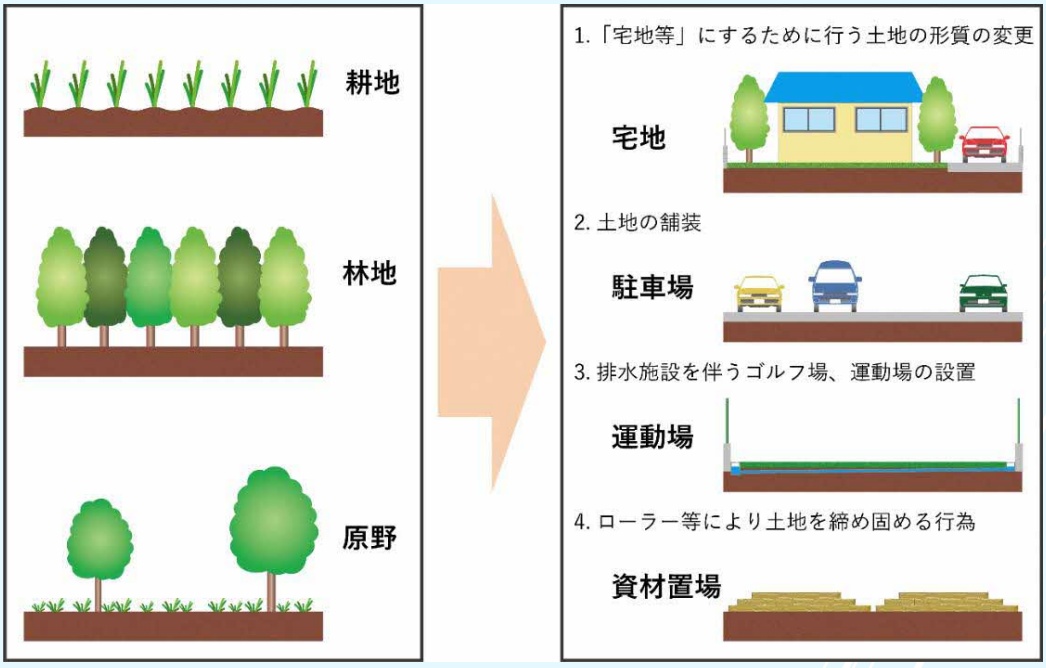
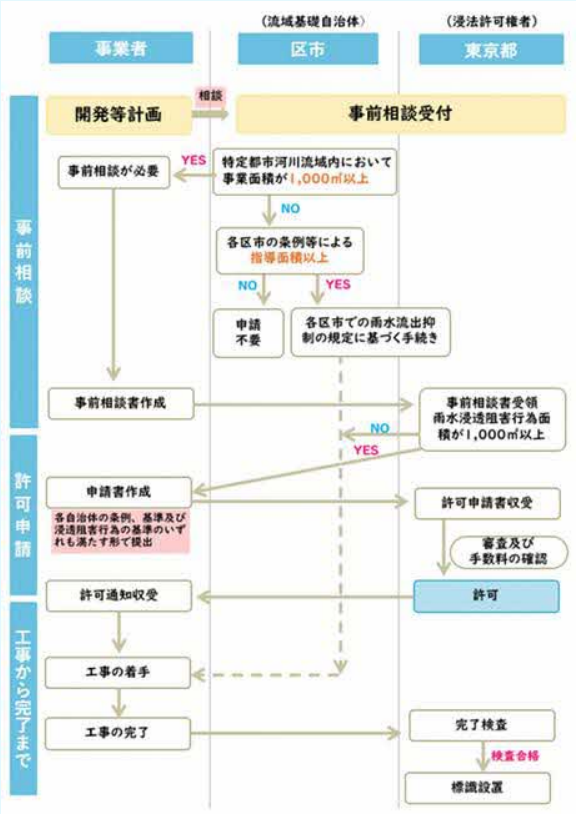
中川・綾瀬川流域で令和７年７月１日から雨水浸透阻害行為許可が開始されます。

中川・綾瀬川が令和6年3月29日に特定都市河川に指定されました。これにより流域内で、新たに『面積1,000平方メートル以上の雨水浸透阻害行為』を行う場合は、東京都へ雨水浸透阻害行為許可申請書を提出し、許可を受ける必要があります。

許可を要する雨水浸透阻害行為の具体例



関連する手続きのフロー図



- 開発等の事業を行う際、雨水浸透阻害行為を行う面積が1,000m²以上であるかを事前相談で確認します。
- 該当する場合は雨水浸透阻害行為許可申請を提出し、東京都知事より許可受ける必要があります。
- 雨水浸透阻害行為の許可後、雨水貯留浸透施設を設置するなどの対策工事を実施し、雨水流出抑制を進める必要があります。

雨水貯留浸透施設の例

RC貯留槽

引用元:株式会社日東
https://www.nitto-inc.co.jp/p_usui_box.html

プラスチック貯留槽

引用元:積水化学工業株式会社
https://sekisui-cw.co.jp/index.html

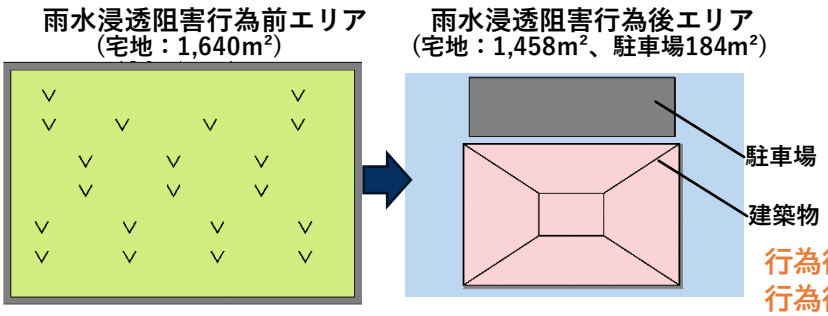
雨水浸透阻害行為の例

耕地(畑)を宅地にするために土地の形質の変更う場合

＊阻害行為前後の最大雨水流出量

【行為前】
畑の流出係数:0.200
➡行為前の最大雨水流出量:
0.015m³/s

【行為後】
宅地の流出係数:0.906
➡行為前の最大雨水流出量:
0.068m³/s

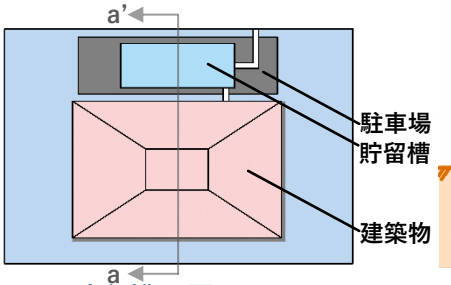


行為後の宅地の方が流出係数が大きいため、
行為後は0.053m³/s分放流量が増大します

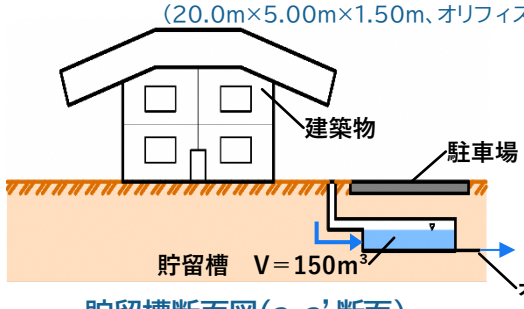
対策工事を実施することにより、**阻害行為後の最大放流量の増大分を削減し、行為前の雨水流出量を上回らないようにします。**

雨水流出抑制のための対策工事の例

対策工事として、自然調節方式の貯留槽
(20.0m×5.00m×1.50m、オリフィスΦ0.060m)を設置した場合



貯留槽設置平面図



貯留槽断面図(a-a'断面)

放流量の算定結果は
0.0089 [m³/ s]となり、
行為前の最大雨水流出量以下
となります。

対策工事後の最大放流量 ＜ 行為前の最大放流量となるため、雨水流出抑制に必要な基準を満たしています。

Q1:雨水浸透阻害行為面積は事業等を行う面積と同じなのか。
A1:事業等を行う面積に、既に宅地等が含まれている場合、その部分は雨水浸透阻害行為面積には含まれません。

Q2:雨水浸透阻害行為の許可にはどのような申請を行えばいいのか。
A2:手続きに関しては、以下のホームページをご覧下さい。
東京都都市整備局ホームページ 特定都市河川浸水被害対策法
https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/chisui/sinsui_taisaku

Q3:雨水浸透阻害行為の許可を申請せずに進めた場合はどうなるのか。
A3:許可を受けずに雨水浸透阻害行為を実施した場合は、法律により6ケ月以下の懲役又は30万円以下の罰金があります。

【問い合わせ先】
東京都 都市整備局 都市基盤部 調整課 施設計画担当
電話：03-5388-3386（直通）

雨水しみこみプロジェクト